

(様式第4号)

第1回 上田市子ども・子育て会議 会議概要

1 審議会名	上田市 子ども・子育て会議
2 日時	平成29年7月28日 午後1時30分から午後3時40分まで
3 会場	ひとまちげんき・健康プラザうえだ 2階 多目的ホール
4 出席者	金山会長、若林副会長、飯島委員、神原委員、小池委員、清水(綾)委員、清水(孝)委員、下村委員、春原委員、高橋委員、瀧本委員、寺田委員、中澤委員、畑中委員、宮下委員、山崎委員 (欠席委員) 尾和委員、倉澤委員、寺尾委員、中村委員
5 市側出席者	小林健康こども未来部長、石井健康推進課長、細川保育課長、山賀子育て・子育て支援課長、遠藤健康推進担当係長、間宮保育担当係長、下林保育担当係長、小山障がい者支援課担当係長、白鳥学校教育担当係長、中村子育て・子育て支援担当係長、遠藤子育て・子育て支援担当係長、清水子ども家庭福祉担当係長、小宮山発達相談センター次長、半田主事
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	平成29年8月1日
協 議 事 項 等	
1 開 会	(山賀子育て・子育て支援課長)
2 あいさつ	(小林健康こども未来部部長)
3 人事通知書の交付	新任委員4名 高橋委員、尾和委員、倉澤委員、中村委員
4 新任委員 自己紹介	高橋委員
5 会議事項	* (1) から (2) まで、一括して事務局より説明。 (1) 上田市子ども・子育て支援事業実施状況について [資料1] 上田市子ども・子育て支援事業計画の第4章基本理念:すべての子どもが笑顔でしあわせにくらせるまち」を目指して取り組んでいる、新規・拡充事業について説明 (2) 事業計画に対する平成28年度実績、平成29年度以降の見込み及び確保の方策について [資料2] 計画の第5章「教育・保育施設の充実」、第6章「地域子ども・子育て支援事業の充実」として平成28年度実績について説明 ・以降、質疑・御意見 (委員) 出産件数が年々減少傾向にあり、H30~31は1,000件を切るのではと危惧している。 少子化に対する劇薬をもっているのか? (事務局) 出産適齢期のお母さん方がもう一人産みたいと思ってもらえるような環境づくりが必要と考える が何かいい方策があれば教えてほしい。 (委員) 出生届を出した段階でその赤ちゃんに選挙権を与える。子どもたちの分を親が管理できるようになれば子どものことを考えた提案もできるのではないかと思う。

(委員長)

今すぐ実現できなくても、子育て世代の意見を反映できるようなことを考えていかれば良いというところで賛同した。

(委員)

5歳児健診をやってほしい。発達支援が必要な子どもが多い時代に早めに支援を入れて小学校につないでほしい。健診で医師を入れるとお母さんは納得してくれる。前向きに検討していただきたい。

(事務局)

5歳児健診は難しいという状況の中で、それに代わるものを実施できないかと検討している。

(委員)

病児保育、場所を増やす検討状況をお聞かせ願いたい。

量の見込みの計算式を何パーセントで出しているのか。

保育園の時間数が変わったので、今まで延長保育をしていた子がしなくてもよくなった。幼稚園は多くて保育園が減っている。

(事務局)

病児保育は、もう1か所増設で調整している。医療機関が望ましいと考え丸子地域で協議を進めている。

量の見込みについては、今年中間年の見直しを予定しており、個々の計算式については次回説明したい。

(委員)

3号認定が見込みより多かったというのが実績との相違があるので直す必要あるのではないかと考えている

(3) 上田市子ども・子育て支援事業計画に関する中間年の見直しについて

計画の中間年にあたる今年(平成29年度)に見直しを行うことについて説明。今年の11月と来年の2月に会議を予定。

質疑・御意見なし

(4) 意見交換

(委員)

放課後児童クラブについて29.4.に国の補助金要綱が変わったが、国の基準に変更する予定はあるのか。

定員数、登録人数と平日の利用者数、どの数字が上田市のニーズとしてとらえているのか。

(事務局)

国の要綱に対して市は1年遅れなので、国に沿うような形でやっていきたい。が予算があるので必ずしも同じにはできないことをご理解いただきたい。

放課後児童クラブに登録している児童が実際いつ利用するのは把握が難しい。実際に利用している人数で把握するのが一番いいと考える。平日の平均の利用児童数で見込んでいる。

(委員)

職員の雇用も難しい中、1年遅れるのはダメージがあると心配している。国では平日の利用数は一切使っていない。把握するのにいい数字だとは考えていない。

(委員)

5歳児健診賛成。幼保小の連携で入学前のお子さんの情報を得られるが、来入児健診前に幼保に行っていない子を拾うためにも必要。

(委員)

障がいを持ったお子さんの親御さんの就労の継続が途切れる方が多い。幼児期はまとまった時間のサポートが受けられるが、学校に行くようになると、放課後のサポートが得られなくなると親御さんが仕事を辞めざるを得なくなる。支援につながっても週に2・3日が現状。子どもの居場所について数があればいいのではなくて、今ある資源とどうつなげていくかが重要な問題と考えている。

虐待について、危うい状態で生活している子が連携の中で生活している家庭がある。ファミリーホームの状況を教えてほしい。

(事務局)

児童相談所でやっているため市では具体的な情報は持っていない。

(委員長)

子育てに関する情報は大事で、現場ではそこにつながる情報もてるようにサポートしてほしい。

(委員)

人手不足といわれる中で、子どもがいる方の雇用が伸びようとしているところに支援がしっかりしていないと雇用がほかに行ってしまう可能性がある。人口も減り、地域が衰退してしまう可能性がある。支援を継続してほしい。

量の見直しをマイナスにしたとき補助金に影響するのか。

実施状況資料の新規・拡充・継続の判断が担当によってばらばらに感じるのを統一してほしい。職員のスキルアップの中に「職員の処遇改善」とあるのは違和感がある。資料作りをしっかりとしてほしい。

(事務局)

補助金は実績に基づいて支給されるので補助自体に影響ない。

資料については目合わせした資料づくりに心掛けたい。

(委員)

産後うつの問題、先月お母さんが自殺して子どもだけ残ったといったことがあった。エジンバル高い人の産後の精神ケア重要なのでこれからお願いしたい。

小さい赤ちゃんは母子手帳が適用にならない。例えば23・24週で生まれた子が緊急のときどう対応していくか。週数に応じた母子手帳を考えてほしい。

おたふく予防接種は自己負担があり接種してもらえない。流行ってから接種しているのではおたふ

くで耳が聞こえなくなった子もいる。配慮をお願いしたい。

(委員長)

一時預かりで、保育士不足のためニーズはあっても利用できていないのではないかと心配している。しんどくなったときにちょっと預けることは必要。対応策として、地域子育て支援拠点で預かり事業をしているところもある。拠点を場所にして、ファミサポの会員さんに預かりをしている取り組みもあるのでお考えいただきたい。

6 事務連絡

第2回会議は、11/1(水)13:30～見直し案を提示し意見徴取

第3回会議は、1/24(水)13:30～最終審議

7 閉会